

2023 年度 関西学院中学部 学校評価を終えて

幼稚園から大学院まで連なる総合学園としての関西学院は、その良さを生かし、お互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価を実施するため、連携する学校の教職員から専門的な視点による意見をうかがうことで、第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。この度、中学部の学校評価が学院総合企画会議（短大・各学校内部質保証部会）において承認されましたので、ウェブサイト上で公表させていただきます。

本年度も、経年変化を見るために、引き続き「教育課程・学習指導」、「生徒指導」、「保健管理」、「保護者との連携」、「キリスト教主義教育の実践」、「特色ある教育の実践」、「関西学院共通項目」を評価項目に設定しました。評価の実施にあたっては、各項目について生徒・保護者・教員にアンケート調査を行い、それぞれの立場からの意見を集めることによって客観性を確保しました。アンケートの回収率は、生徒 98.1%、保護者 83.5%、教員 100%となっております。

多数の項目で得た高評価のアンケート結果に基づき、全体として高い自己評価としましたが、「教育課程・学習指導」を中心として改善への示唆が多く与えられたことを重く受けとめ、生徒・保護者・教員の声に一層真摯に応える学校でありたいとの願いを新たにしております。

本年度も各項目について、まず現状を説明し、アンケートの集計結果を参考にしながら評価・分析を加え、今後の改善に向けた方策を示し、自己点検・評価としました。また、上記のように、連携する学校の教職員からの意見も合わせて中学部の学校評価としてまとめています。

関西学院中学部は、学校評価を通じて自らその課題を探り、それに向き合って改善することによって、より充実した教育活動等を生徒に提供し、また、その結果を社会に公表することによって信頼を高め、課題意識を共有していく所存であります。

2023 年度中学部の学校評価を項目別にまとめたものを、以下に掲載いたします。

今後とも、各部門において改善に努めていく所存ですので、どうぞよろしくお願いたします。

2024 年 3 月 15 日
関西学院中学部
部長 藤原康洋

学校評価

教育理念・使命・目標

中学部がめざす教育の目標

1. キリスト教に基づいた伝統ある人間教育を根本に置いて、「感謝・祈り・練達」の教育理念を大切に、人の痛みをわかろうとする人間、他者を尊重し将来に夢を持って社会に貢献できる人間を育てる。
2. 建学の精神を体得した生徒を育てることにより、将来、高等部、大学、さらに社会人として、リーダー的役割を果たせる人間を育てる。

2023年度の評価項目

- ①教育課程・学習指導：全生徒に対して中学部がめざす水準の基礎学力を定着させるとともに、学力上位生徒に対して、興味関心に応じた発展的学習を行うため、学習課程の精査や教授力の向上をめざして設定している。
 - ②生徒指導：生徒の社会的資質や行動力を高め、学校が生徒にとって有意義で興味深く充実したものになることをめざして設定している。
 - ③保健管理：生徒の身体面、精神面にかかわる項目として設定している。
 - ④保護者との連携：生徒を育てるには学校教育と家庭教育に一貫性が必要である。そのため保護者と教員の連携が密になるように設定している。
 - ⑤キリスト教主義教育の実践：建学の精神としてのキリスト教主義教育の充実をめざし設定している。
 - ⑥特色ある教育の実践：中学部の特色として重点的に展開している授業や行事等の充実をめざし設定している。
 - ⑦関西学院共通項目：スクールモットー“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成をめざし設定している。
- 以上の7項目。

2023年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【教育課程についての共通理解と連携】	自己評価	A
目標	教員による教育課程の全体像の理解		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●毎年、学習ガイドブックを作成し、生徒に対する教科学習へのガイダンスを行なっている。同時に教員もそこから各教科の概要を把握・理解できるように期待をしている。 ●学力推移調査等の外部試験の結果を全教員に開示することによって、客観的な学習到達状況を周知している。 ●非常勤講師も含め、教科担当者会議を行い、個別生徒の学習状況について情報交換を行っている。また、隔週の教員会議でも適宜、情報交換を行っている。 ●教員アンケート問1「教員は、教育課程の全体を理解している。」の項目についての肯定的評価が94.6%（昨年度91.9%）と高い値を維持している。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●本項目については、従前の取組を継続的に行うとともに、それが実効的に働くよう、研修的な取組も行う。 		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【生徒の学力・体力の的確な把握】	自己評価	A
目標	外部テスト導入などを通じた学力のより客観的な把握／教員による学力や体力評価についての理解向上		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●従来通り、定期試験だけでなく、小試験、口頭試問、口頭発表、課題提出、日々の学習活動への意欲等を含め、細やかな学力評価を行っている。 ●外部試験としては学力推移調査を行い客観的な学力把握に努めている。 ●日本漢字能力検定、実用英語技能検定を受検し、生徒らが意欲的に学力向上と学力把握に努めるよう、表彰等を行って、それらを奨励している。 ●外部試験などの結果を返す際、問題の解説にとどまらず、評価数値の持つ意味なども適宜、生徒に説明している。 ●生徒アンケート問 3「中学部は、自分の学力や体力を正しくつかんでくれている。」の項目について昨年度同様、85.9%（昨年度 83.0%）の生徒が肯定的評価をしている。 ●同旨の質問である保護者アンケート問 4「中学部は、生徒の学力や体力を適正に評価している。」でも昨年度同様、93.7%（昨年度 92.8%）の肯定的評価が得られている。 ●教員アンケート問 2「教員は、外部テスト導入などにより、客観的な学力把握に努めている。」の項目について、肯定的評価が一昨年度は 73.5%であったが、今年度は 83.8%と高い評価を得られた。 		
今後の方策	●概ね、良好な結果が得られているので、従来の取組を継続的に行う。		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【各教科の特性に応じた授業の工夫】	自己評価	A
目標	教員自身による担当教科の特性の理解／より質の高い授業を目指しての教員による不断の研究／授業研究の成果を活かしての授業への不断の創意工夫		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●従来通り、全教員に対して研修日を設定し、また個人及び教科研究費を支給し、研鑽の機会を確保している。 ●各教科で独自教材を活用し、基礎学力の定着をはかっている。 ●教員アンケート問 6「教員は、知的好奇心の喚起に留意した授業を行っている。」に対する肯定的評価が 94.6%（昨年度 89.2%）であり、生徒アンケート問 5「授業は、さまざまな工夫が加えられていて分かりやすい。」に対する肯定的評価も 83.1%と授業への評価は高く、昨年度の 81.4%から微減であるが、この傾向は数年来変わっていない。 ●教員アンケート問 3「教員は、自らが担当する教科の特性を理解している。」について、今年度の肯定的評価は 97.3%であった。昨年度も 97.3%であり、この傾向は数年来変わっていない。 ●教員アンケート問 4「教員は、質の高い授業を目指して、授業研究を不断に行っている。」に対する肯定的評価は 97.3%（昨年度 89.1%）、教員アンケート問 5「教員は、授業研究の成果を活かし、授業の創意工夫を行っている。」に対する肯定的評価は 91.9%（昨年度 89.2%）である。 		
今後の方策	・働き方改革を含め、各教員が自己研鑽を行えるような環境の整備を行う。		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【個々のニーズや興味関心に応じた授業展開】	自己評価	B
目標	知的好奇心の喚起に留意した授業の展開／補習など特別な学習機会の提供／中学部と高等部との連携		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●英語の分割授業、数学の一部分割授業を導入し、授業内で個別生徒に対応できる機会を増やしている。 ●授業では、各教科、発展的、応用的内容を扱うよう努めている。 ●数学、英語では到達度の低い生徒に対し、補習を行っている。他教科においても個別的に遅れの目立つ生徒には、課題を課す等の対応を行っている。 ●英語ではメンター制度と呼ばれる取組を導入し、定期的に大学生による学習習慣確立のための機会を提供している。 ●生徒アンケート問 6、保護者アンケート問 5 の、補習等の機会が確保されているかについての項目では、生徒の肯定的評価が 87.3%（昨年度 87.0%）で、保護者の肯定的評価が 68.8%（昨年度 68.0%）である。生徒の評価と保護者の評価に乖離が見られる。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●数学や英語の分割授業で、できる限り生徒の必要性に合わせた授業構築を行う。 ●生徒間の学力差が大きく、授業内容、進度の焦点を合わせにくくなっているのが現状である。到達度の低い生徒への対応を継続するとともに、学力が高く、学習意欲も旺盛な生徒の要求にも対応できるよう、習熟度別学習の幅広い導入を検討する。ただし、これの実現に向けた人的・財政的担保は必要である。 		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【課外活動の充実】	自己評価	A
目標	生徒会などの自治活動の充実／クラブ活動など課外活動の充実／課外活動が正課（学習）を妨げていないことの徹底		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●多くの生徒が、クラブ活動など課外活動へ意欲的に参加している。また、受験希望者対象の学校説明会などでも、アンケートや個別質問で課外活動への関心の高さがうかがわれる。 ●テニス部の全国大会進出に代表されるように運動部全般が活躍している。また、文化部でも、理科部が第 23 回創造アイデアロボットコンテストで全国大会に出場するなど活躍している。 ●生徒会活動全般を通じ、自治意識の涵養につとめている。今年度は冬季のコート着用、衣替え期間の廃止、校内への飲料水自動販売機の設置を生徒会が教師会へ提案する形で実現した。 ●課外活動と学習の両立を図るため、従来どおり、定期試験前 1 週間はクラブ活動停止としている。 ●学習や家庭・地域での体験ができるよう、休暇中のクラブ活動日を、夏期休暇中は 18 日に制限し、冬期休暇中は停止しているのは従来通りであるが、今年度も文部科学省の部活動ガイドラインを遵守している。 ●一部のクラブ活動（2024 年 1 月現在 5 つのクラブ活動）で部活動指導員を導入し、より専門的な指導を行っている。 ●生徒アンケート問 1「学校に行くのが楽しい。」の肯定的評価が 88.8%で、生徒アンケート問 2「中学部の教育に満足している。」の肯定的評価が 86.2%である。保護者アンケート問 1「生徒は楽しんで学校に通っている。」の肯定的評 		

	<p>価が 93.5%で、保護者アンケート問 2「中学部の教育に満足している。」の肯定的評価が 91.2%である。これは正課外の活動への期待、評価も高いことを示していると考えられる。</p> <p>●生徒アンケート問 7「自分たちの手でホームルームや生徒会などの自治活動を行っている。」の肯定的評価が 85.0%と、一昨年度の 69.6%から大幅に増えた。</p>
今後の方策	<p>●ここ数年来、アンケートでは概ね良好な評価が得られているので、従来通りの取組を継続していく。</p>

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【基本的な生活習慣の確立】	自己評価	A
目標	挨拶や時間厳守などの基本的な社会マナーの指導／整理整頓や環境美化の指導		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>●挨拶や時間厳守などといった基本的な社会マナーについては、全ての教育活動の場面において、全教員で重点的に指導している。</p> <p>●整理整頓については、担任やクラブ顧問が私物管理の在り方を指導したり、忘れ物などを安易に放置したりせず、再発防止のためにその都度指導したりすることで適宜啓発している。</p> <p>●環境美化については、風紀美化委員会と連携しながら、教室の掃除や廊下の汚れを取るなどして、生徒と教員が一体となり校内美化に努めている。</p> <p>●生徒アンケート問 10、保護者アンケート問 10、教員アンケート問 12 の基本的な社会マナーについての項目では、肯定的評価が生徒 92.7%、保護者 89.3%と、昨年度に引き続き高かった。また、教員の肯定的評価が、一昨年度 67.6%、昨年度 81.1%から、今年度は 86.4%とさらに高くなった。教員集団が一体感を持ち、共通の認識を抱いたうえで指導を続けてきた成果が表れたものと考えられる。</p> <p>●教員アンケート問 13「中学部は、生徒に整理整頓や環境美化に努めさせている。」の項目における肯定的評価は、一昨年度 53.0%、昨年度 75.7%から、今年度は 78.4%とさらに高くなった。日々生じる些細な事象に対しても、誠実かつ丁寧、迅速に対応していくことを心がけるようになった成果が表れたのではないかと考えられる。</p>		
今後の方策	<p>●基本的な社会マナーについては、全教員が共通の認識を抱いたうえで、全ての教育活動の場面において、細やかかつ丁寧に指導していく。</p> <p>●整理整頓や環境美化については、風紀美化委員会と連携しながら、生徒自らが美化意識を育み、具体的な実践に移していけるように、また、今後は校内から地域へとその視野を広げていけるように指導していく。</p>		

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【自主自律の精神の育成】	自己評価	A
目標	HR（学級活動）における自主自律の精神の育成／学校行事における班活動などを通じた自主自律の精神の育成		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>●学級活動においては生徒が、学校行事においては生徒会役員や実行委員がリーダーとなり、班や委員会を組織するなどして、その企画・運営を自主的に行っている。</p> <p>●代議員会や委員会活動の活性化に重点を置き、学級活動や生徒会活動を中心に、自主自律の精神を育てている。</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒アンケート問 7「自分たちの手でホームルームや生徒会などの自治活動を行っている。」の肯定的評価が、一昨年度 69.6%、昨年度 79.1%から、今年度は 85.0%とさらに高くなった。また、教員アンケート問 14「中学部は、学級活動や学校行事において生徒の自主自律の精神の育成に努めている。」の肯定的評価が、一昨年度 73.5%、昨年度 86.5%から、今年度は 91.9%とさらに高くなった。生徒会や代議員会が自分たちで検討し、教師会と交渉した結果、制服移行期間の廃止や、防寒着の着用許可などといった権利を得た。「自分たちの学校は、自分たちの手でより良くしていく」といった思いが具体的な形となり体现された、そうした成功体験の積み重ねが、肯定的評価の要因ではないかと考えられる。 ●保護者アンケート問 11「中学部は、学級活動や学校行事を通じて生徒の自主自律の精神を育成している。」の肯定的評価が 96.0%、教員アンケート問 9「中学部は、生徒会などの自治活動が生徒によって盛んに行われるように配慮している。」の肯定的評価も 83.7%と高かった。生徒会役員を中心に、生徒が自主的に学校行事などに取り組んできた姿勢が評価されたのではないかと考えられる。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●学級活動や学校行事において、その企画・運営を生徒がこれまで以上に自主的・主体的に行えるように指導する中で、生徒の自主自律の精神を育成していく。 ●生徒会活動や委員会活動を活性化し、より良い学校生活を過ごしていくために自分たちで何をどうしていくべきか、場合によっては何をどう変えていくべきかを、生徒が自ら判断し、行動に移していける力を身につけさせる。 ●生徒指導部と生徒会、代議員会との連携をこれまで以上に深め、年度に縛られず、継続性を持った生徒会活動の在り方や校則の在り方などを模索していく。

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【問題行動への対応】	自己評価	A
目標	生徒の問題への対応についての教員間での共通理解／生徒の問題行動の早期発見／問題行動に対しての適切な指導・訓戒		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の問題への対応についての教員間での共通理解については、生徒指導部内に情報共有フォルダを作成し、指導案件の報告を随時共有出来るようにしている。さらに、共通理解のための教員用手引きを用いて、共通理解と意思統一を進めている。また、今年度からはいじめ防止対策委員会を設置し、これまで以上にチーム学校として、生徒の問題行動に対して対応している。 ●生徒アンケート問 11、保護者アンケート問 12、教員アンケート問 17 の、生徒の問題行動に対して適切に対応しているかについての項目では、教員の肯定的評価が 97.3%と高かった。一方で、生徒は 85.1%、保護者は 83.6%と、教員に比べて少し低くなっている。生徒とのコミュニケーションの機会をこれまで以上に設けていくと共に、保護者に対しては、問題行動に至るまでの経緯や指導・対応方針などを、これまで以上に迅速かつ丁寧に説明していくことが求められているものだと捉えている。 ●近年課題となっていた教員アンケート問 15「生徒の問題への対応について教員間で共通理解がある。」の項目については、肯定的評価が 2019 年度の 69.7%から昨年度は 81.0%、そして今年度は 94.6%と高くなった。情報共有フォルダを活用することが定着したと共に、生徒指導部を中心とした関係教員間での報告・連絡・相談の機会を意図的に増やしてきたこと、また、チーム学校として、 		

	<p>多くの教員で生徒の問題行動に関わるようになってきたことの効果が表れているのではないかと考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今年度より新たに教員アンケート問 16「教員は、生徒の問題行動の早期発見にむけて、日頃から人間関係を観察し、適宜面談を実施するなどしている。」の項目を設けたところ、肯定的評価が 97.3%と高かった。問題行動が深刻化してから対応するのではなく、早期発見に至れるように、各教員が生徒と共に休み時間を過ごしたり、部活動の場面に積極的に関わったりすること、また、そうした中で気になることがあれば、生徒と話し合う機会を頻繁に設けることなどを心がけてきた成果が表れているのではないかと考えられる。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●共通理解のための教員用手引き更新にむけた検討、情報共有フォルダの活用、教師会での生徒指導部からの報告の精緻化、いじめ防止対策委員会での情報共有などを進めることにより、生徒の問題への対応についての教員間での共通理解を、チーム学校として深めていく。 ●生徒の問題行動の早期発見、また問題行動に対する適切な指導にむけて、保護者と教員の連携を深めるためにも、具体的な対応の在り方を改めて整理すると共に、担任やクラブ顧問、当該学年団と生徒指導部が、チーム学校として密に連携していくことで、迅速かつきめ細やかに指導・対応していく。

評価項目 【テーマ】	保健管理 【心身の健康管理】	自己評価	A
目標	健康診断の定期的な実施と事後措置／健康状態の把握／健康相談／感染症の予防		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●2月に新入生健康診断を、5月に定期健康診断を実施した。新入生健康診断・定期健康診断の受診率は97.9%だった。 ●本校は体育と部活動を盛んに行っている。そのため心臓検診には特に力を入れており、毎年全学年に心電図検査を実施している。事後措置では問診表、運動部加入の有無、運動強度を基に学校医が再判定を行い、心臓検診の質の向上に努めている。要再検となった生徒には「学校生活管理指導表」の提出を求め、主治医の判定による運動部可否等の状況について教員と共有している。教員アンケート問 18「中学部は、生徒に対し健康診断を定期的実施し、事後措置を適切に行っている。」の項目について肯定的評価は100%だった。 ●心理的な課題を抱える生徒について、週1回のサポートルーム会議、年2回のカウンセリング委員会を実施している。サポートルーム会議では学年主任、支援コーディネーター、支援員、養護教諭、カウンセラーが情報を共有し個々の生徒の支援について、検討している。生徒アンケート問 12、保護者アンケート問 13、教員アンケート問 18の、「生徒の健康について適切に把握しているか」についての項目において、生徒の86.7%、保護者の91.1%、教員の100%から肯定的評価を受けた。 ●今年度も学校医による指導のもと感染症対策に取り組んだ。しかし今年度は文化祭、修学旅行の後に校内でインフルエンザが流行し、休校措置を取らざるを得ない状況となった。保護者アンケート問 14「中学部は、生徒が健康で安全な学校生活を送れるよう感染症の予防に配慮している。」の項目について、昨年度(95.9%)より低下したが88.4%の肯定的評価を得ている。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も学校医の助言のもと、健康診断及び事後措置の質の向上に努めていきたい。 ●学校行事は生徒たちにとって貴重な学びとなる有意義な教育活動である。行事 		

	<p>を行う際には感染症拡大のリスクが伴いその対策が課題となる。今後も周囲の感染症流行状況等を踏まえながら学校全体で最善の対応が取れるように努力していきたい。</p> <p>●心理面で課題を抱える生徒の支援について、学校だけでは対応困難なケースが見受けられる。外部機関（医療・福祉）と連携を取りながら生徒を支援できる体制が必要となる。生徒の支援については個々の教員の経験に留まるのではなく、中学部という組織の中に経験が蓄積されるよう、チームで取り組んでいきたい。</p>
--	---

評価項目 【テーマ】	保健管理 【怪我・急病発生時の対応】	自己評価	A
目標	怪我・急病発生時の迅速で適切な対応		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●2023年度の平均来室者数は、内科的理由が113.2件/月、外科的理由が78.5件/月、その他の理由が17件/月であった（2023年12月末現在）。2022年度の平均来室者数は内科的理由77.4件/月、外科的理由93.3件/月、その他の理由5.8件/月であり、内科的理由とその他の理由による来室者が増加した。 ●日常の疾病、怪我については迅速に、適切に処置できるように努めている。 ●病状報告とその対応については、保護者と連携、相談しながら行っている。 ●学校生活の中で配慮が必要となる生徒の病状とその対応については、教員間で情報を共有している。 ●生徒アンケート問14、保護者アンケート問15、教員アンケート問21の、怪我・急病発生時の対応についての項目では、昨年度と同様に生徒の92.1%、保護者の96.0%、教員の97.3%から肯定的評価を受けている 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●昨年と比べて内科的理由・その他の理由で来室する生徒が増えた。内科的理由で来室する生徒たちの中には、心の問題を身体で表していることも少なくない。今後も生徒たちが言葉にできない思いを受け止められるよう努力していきたい。 ●今後も怪我・急病発生時の対応については、迅速かつ適切に対応できるように取り組んでいきたい。 		

評価項目 【テーマ】	保護者との連携 【保護者との懇談の実施】	自己評価	A
目標	教育内容に関する保護者との意見交換／クラス担任と保護者との面談の実施／クラス・クラブ・委員会等の保護者との懇談の実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●対面での保護者面談や懇親会が少しずつコロナ禍前の頻度に戻っている。 ●保護者面談を希望する保護者全員に2学期が始まる前までにすべてのクラスが保護者面談を行った。 ●保護者アンケートの問18「中学部は、クラス担任と保護者との面談を必要に応じて適切に行っている。」に対して「強くそう思う」の回答が、昨年の34.8%から40.5%に増えている。「どちらかといえばそう思う」と合わせると95.0%（昨年度91.1%）に増えている。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者の面談の頻度は適切なレベルに戻っていると思われる。保護者がその頻度に満足できるよう、日頃からの情報発信を各学年が発信続ける必要がある。 		

評価項目 【テーマ】	保護者との連携 【学校運営についての保護者（PTA）との協力状況】	自己評価	A
目標	PTA と協力した学校行事の運営／PTA 幹事会等の適切な開催		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ禍で昨年中礼拝堂で行っていた幹事会を今年度は会議室で幹事が向き合って座り、地区ごとでの相談をしながら行うことができた。 ● 地区ごとの親睦会を行った。 ● 文化祭では全地区が店舗販売を行った。飲食販売はすべて体育館で行い、PTA グッズは楠横の広場のテントでの販売となった。 ● 各地区が売る品目を増やしたため、昨年度に比べ、収益が大きく増えた。 ● 体育館での販売と共に、飲食をすべて体育館内で行う、という新しい試みを行い、来場者や在校生の飲食の場を確保した。 ● 保護者アンケートの問 16「中学部は、行事などの際に、適宜 PTA と協力してこれを実施している。」に対して「強くそう思う」の回答が、昨年度の 42.5% から 44.5% に増えている。 ● 保護者アンケートの問 17「中学部は、PTA 幹事会等、PTA との協議会を適切に開催している。」は昨年度の 41.2% から 42.4% に増えている。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ● 文化祭や地区親睦会など PTA 活動が活発化するに伴い、スムーズに行えるよう、それぞれの行事のマニュアルを作っていくたい。 ● 文化祭で PTA が直接生徒と関わりの機会を持つことができたが、そのような目に見える形での関わりの機会をこれからも確保していきたい。 		

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育の実践 【キリスト教主義教育の理念の共有】	自己評価	A
目標	教員間でのキリスト教主義教育の理念の共有		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学部教育の五本柱の一つとして、礼拝や聖書科授業、様々な行事を通してキリスト教主義教育のプログラムを展開し、その理念を生徒・保護者・教員が共有できるように機会を設けている。礼拝については、多数の第一線で活躍されている講師を招くことができた。また、いのちと人権をテーマにした礼拝も行った。保護者に対する「PTA 聖書を学ぶ会」は毎回、対面で開くことができ、コロナ禍前の流れを取り戻しつつある。保護者が中学部のキリスト教主義教育の理念に接する機会となっている。 ● 生徒アンケート問 15「日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる。」の項目についての肯定的評価は 88.0%（昨年度 89.9%、一昨年度 87.1%）、また問 16「キリスト教に関する理解が深まっている。」の項目についての肯定的評価は 83.0%（昨年度 85.2%、一昨年度 82.4%）といずれも昨年度よりは微減、一昨年度よりは微増となっている。保護者アンケート問 19「中学部は、キリスト教主義教育を適切に行っている。」の項目についての肯定的評価は 97.8%（昨年度 97.4%、一昨年度 95.9%）で過去 3 年間で最高値となっている。特に保護者のキリスト教主義教育への理解の肯定的評価が年々高い数値となっているこ 		

	とは評価できる。教員アンケート問 26「教員間でキリスト教主義教育の理念を共有している。」に対する肯定的評価は83.8%（昨年度86.5%、一昨年度73.5%）と昨年度よりは微減、一昨年度よりは高くなっている。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ● 中学部は今年創立 134 年を迎え、関西学院の建学の精神であるキリスト教の精神を受け継ぐ学校として、時代の変化に適応したキリスト教主義教育のあり方を構築し、具体的でかつ新しい教育プログラムを展開する。 ● 教員に対して、さまざまな研修の機会を通して、理念を共有するための研修を継続的に実施する。また、学院内の関西学院のキリスト教主義教育にかかわる行事等への積極的な参加を呼びかける。

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育の実践 【キリスト教主義教育の推進】	自己評価	A
目標	学校の重要な柱としての礼拝の遵守／生徒のキリスト教的人間理解を育成するためのプログラムの実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ● キリスト教主義教育の実践として、毎日の礼拝の時間を中心に生徒と教員が共に日常的にキリスト教精神にふれるプログラムを実施し、生徒には聖書科の授業や様々な学校行事を中心にキリスト教主義教育を展開している。 ● 今年度は年度当初からコロナ禍以前の形で全校礼拝を実施することができ、讃美歌も全校生で歌唱することができた。その喜びがアンケート結果にも表れているといえる（生徒アンケート問 15 と問 16）。生徒たちが自主的に取り組む生徒礼拝も毎月数回行い、毎週 1 回の早天礼拝も定着して行われている。 ● 教員アンケート問 27「中学部は、礼拝を重要な柱として守っている。」の肯定的評価は 89.2%（昨年度 91.9%、一昨年度 82.4%）と昨年度より微減であるが、生徒間のみならず教員間においても、中学部のキリスト教主義教育における礼拝が重要な柱である認識は定着している。教員アンケート問 28「中学部は、生徒のキリスト教主義による人間理解を育成するためのプログラムを適切に実施している。」の肯定的評価は 83.7%（昨年度 89.2%、一昨年度 82.3%）と昨年度よりは微減、一昨年度よりは高くなっている。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ● 礼拝の奨励ではできる限り、世界各地の各分野で活躍されている講師を招く。聖書科授業でのカリキュラムも新たな改革をしながら、いのち、人権、平和、道徳教育などのさまざまなテーマでキリスト教主義教育を推進していく。 ● 人間教育の場でもある礼拝を一日の生活リズムを整える時として堅持し、休校期間中はオンラインでの礼拝の形を取り入れ、教員、生徒・保護者にとって親しみやすい礼拝のあり方を考えていく。 ● 生徒たちがより自主的で主体的な運営ができるような礼拝にするため、きめ細やかな指導を行っていく。 		

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【キャンプ・体験的学習】	自己評価	A
目標	キャンプ・体験的学習の、教員全員・学校全体による実施		

<p>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● キャンプ・体験的学習は中学部が長年大切にしてきた伝統的行事の1つである。1年生時は入学直後の千刈オリエンテーションキャンプ（2泊3日）、2年生時は岡山県の無人島でのキャンプ（4泊5日）、3年生時は修学旅行（4泊5日）と、各学年で特徴的な校外宿泊行事を設けている。今年度はコロナウイルス感染症による行動制限が緩和されたが、コロナ禍からの移行期間として宿泊を伴う行事は実施形態を変更して実施した。 ● 1年生時の飛鳥での校外学習、2年生時の奈良での校外学習、3年生時の修学旅行では、事前に生徒に行動計画を練らせ、班行動を中心とした自主研修を組み入れている。 ● 今年度の1年生のオリエンテーションキャンプは昨年度同様、宿泊を伴わない学校内での3日間のプログラム、2年生の青島キャンプは希望者のみの2泊3日のキャンプとなり、どちらも例年と実施形態が大きく異なった。なお、青島キャンプについてはA日程のみ2泊3日、B日程、C日程は台風の影響で1泊2日での実施となった。3年生は通常どおり九州地方で4泊5日の修学旅行をおこなった。また、1年生、2年生の校外学習は臨時休校により予定していた11月に実施することができず、予定を変更することとなった。生徒アンケート問24「キャンプや体験的学習が学校全体で丁寧に準備され実施されている。」の肯定的評価は90.2%（昨年度82.3%）となり昨年度を上回る高評価であった。また、保護者アンケート問27「中学部はキャンプや体験的学習を丁寧に準備・実施している。」の肯定的評価は90.6%（昨年度86.6%）、教員アンケート問34「中学部は、キャンプ・体験的学習により、生徒の創意工夫や協力する心を養っている。」の肯定的評価が94.6%（昨年度100%）となり、保護者、教員どちらも評価が高かった。キャンプや修学旅行の実施が評価されただけでなく、本アンケートを取った時点では日程変更のため校外学習が実施されていなかったにも関わらず生徒、保護者の評価が昨年度よりも高評価となったのは、校外学習に向けた事前学習や事前準備等が評価されたものであると考えられる。 ● 一方で教員アンケート問34「中学部は、キャンプ・体験的学習により、生徒の創意工夫や協力する心を養っている。」の肯定的評価が昨年度から5.4ポイント下がっている。これは1年生オリエンテーション行事が通常どおりおこなえていないことや、2年生青島キャンプが学年全員参加の行事ではなく希望者のみの実施となったこと、校外学習が予定どおりの日程で実施できなかったこと等が影響していると考えられる。
<p>今後の方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● キャンプ・体験的学習の意義は、生徒・保護者・教員の誰もが認めるところである。次年度以降も社会の変化など様々な事柄の影響により実施形態の変更が余儀なくされるであろうが、生徒、教員共に健康で安全に行事が実施できるよう、対策をこれまで以上に検討し、キャンプ・体験学習の実施を継続していく。

<p>評価項目 【テーマ】</p>	<p>特色ある教育の実践 【芸術教育】</p>	<p>自己評価</p>	<p>A</p>
<p>目標</p>	<p>音楽・美術を中心とした芸術教育による児童生徒の豊かな感性の育成／音楽・美術を中心とした芸術教育による児童生徒の自己表現能力の育成</p>		
<p>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 通常の音楽・美術の授業に加えて、秋に行われる文化祭では、各クラスが合唱を披露する音楽コンクール、授業で制作した全校生徒の作品を展示する美術展などを開催している。 ● 生徒が本物の芸術に触れることができる機会をつくるために、学外の施設に演 		

	<p>奏や劇を鑑賞しに行く、演奏家や楽団などに学校公演を依頼するなどして、芸術鑑賞会を毎年おこなっている。</p> <p>●生徒アンケート問 22「音楽・美術などの芸術活動を通して、表現する楽しさを味わい、豊かな心が育っている。」の肯定的評価は 79.5%（昨年度 79.7%）保護者アンケート問 25「中学部は、音楽・美術を中心とした芸術教育により、生徒の感性と表現力を育成している。」の肯定的評価は 85.3%（昨年度 89.4%）、教員アンケート問 32「中学部は、音楽・美術を中心とした芸術教育により生徒の豊かな感性を育成している。」の肯定的評価は 100%（昨年度 97.3%）となり、生徒、保護者、教員の三者すべてで昨年度と同等または昨年度以上の評価となった。学内での芸術鑑賞会の実施に加え、音楽コンクールの保護者参加、文化祭の一般公開等、コロナ禍で近年できていなかったことを実施したことが今年度の評価につながったと考えられる。</p>
今後の方策	<p>●日々の授業・行事ともに生徒が主体的に活動に取り組むことができるように授業内容や実施形態を工夫し、鑑賞活動や表現活動の機会を多く設け生徒の豊かな情操の育成、自己表現力の育成に取り組む。</p>

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【読書・図書館教育】	自己評価	A
目標	読書生活の推進と実態把握／図書館を活用した総合的・教科横断的な学習活動の展開／読書・図書館教育に特化した学校行事の実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>●設備が整った図書館を活用するだけでなく、読書記録の推奨、国語科・読書科による授業前の 10 分間読書の実施を通じて、読書習慣の定着を図っている。</p> <p>●読書科の授業を通じ、図書館の利用、情報の獲得・整理・活用・表現の方法や技術を学習している。</p> <p>●各省庁や法人・企業などから案内のある募集型のレポートや作文などについて読書科が窓口となり、広く生徒に情報を伝達し、文芸コンクールを実施している。各コンクールに応募した生徒の中から今年度も複数の受賞者を輩出している。</p> <p>●生徒アンケート問 17「学校生活を通じて読書に親しみ、図書館をよく利用している。」の生徒の肯定的評価が 73.8%（昨年度 74.2%）となり、昨年度と同等の高評価を維持することができた。電子書籍の利用、1 年生の大学図書館見学・利用の再開、複数の教科の図書館を利用した授業展開等が評価されたと考えられる。</p> <p>●生徒アンケート問 18「読書に関するプログラムが充実している。」の肯定的評価は 90.8%（昨年度 93.9%）、保護者アンケート問 21「中学部は、図書館を活用した総合的な学習やプログラムを展開している。」の肯定的評価は 91.7%（昨年度 95.5%）となり、昨年度と同等の高評価であった。図書館利用の取組が生徒・保護者双方から評価されている。</p> <p>●教員アンケート問 29「中学部は読書生活の推進と実態把握を適切に行っている」の肯定的評価は 100%（昨年度 94.6%）、質問 30「中学部は図書館を活用した総合的・教科横断的な学習活動を展開している」の肯定的評価は 97.3%（昨年度 91.9%）となり、昨年度を上回る高評価であった。教員一人一人が読書教育、図書館活用に主体的に取り組んだ結果であると考えられる。</p>		
今後の方策	<p>●コロナ禍に代表されるように、社会の変化によって変化を求められる場面が今後も続くことが考えられるが、そのような中でも、本校の伝統的な読書科教育の根幹を変えることなく、生徒に対するアプローチを継続していく。</p>		

評価項目 【テーマ】	関西学院共通項目 【関西学院における一貫教育を含めた総合学院としての観点】	自己評価	A
目標	スクールモットー“Mastery for Service”の認知度・共感度を知る。／スクールモットー“Mastery for Service”の認知度向上を図る。／学校の教育が、関西学院の使命である「“Mastery for Service”を体現する世界市民」の育成につながっていることを再認識してもらう。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>●関西学院の建学の精神を表すスクールモットー“Mastery for Service”の理念の共有と実践について、生徒・保護者・教員に対して共通の質問を提示し、回答を得た。生徒アンケート問 26、保護者アンケート問 29、教員アンケート問 36の「私は、関西学院のスクールモットーが“Mastery for Service”であることを知っている。」の肯定的評価は、生徒が 98.6%(昨年度 99.2%、一昨年度 98.1%)、保護者が 99.7%(昨年度 99.1%、一昨年度 98.5%)、教員が 100%(昨年度 100%、一昨年度 100%)という結果で、保護者の数値がここ3年間で最も高い数値となった。どの数値も高いことが他校にはない中学部の特色である。スクールモットー“Mastery for Service”が生徒・保護者・教員の共通の理念として定着している。生徒アンケート問 27、保護者アンケート問 30、教員アンケート問 37の「私は、関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”に共感している。」の肯定的評価も、生徒は 91.9%(昨年度 93.2%、一昨年度 90.7%)、保護者は 98.7%(昨年度 99.0%、一昨年度 97.8%)、教員は 100%(昨年度 100%、一昨年度 97.0%)と高い数値を維持している。生徒アンケート問 28、保護者アンケート問 31、教員アンケート問 38の「中学部は、『“Mastery for Service”を体現する世界市民』の育成につながる教育を実践している。」の肯定的評価は、生徒が 87.1%(昨年度 87.2%、一昨年度 85.3%)、保護者が 92.4%(昨年度 92.4%、一昨年度 86.9%)、教員が 86.5%(昨年度 91.8%、一昨年度 81.8%)と昨年度よりは微減、一昨年度よりは高くなっている。いずれの評価項目もすべて圧倒的に肯定的評価が高くなっているという結果は、中学部がスクールモットーを基に教育活動を展開していることを、生徒・保護者・教員が共通に理解し、それを体現していると評価できる。</p>		
今後の方策	●スクールモットー“Mastery for Service”の理念の共有と実践についての肯定的評価を継続していくために、その理念を教育活動で展開することを常に心がけ、授業や行事等を行っていく。		

(自己評価)

A+=テーマに対する目標を達成した。

A=テーマに対する目標を概ね達成した。

B=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行しているが、達成にはまだ時間がかかる。

C=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行していない。

総合評価

- 昨年度評価では生徒・保護者・教員すべてにおける多数項目で肯定的評価が前年度より増えたが、同様の増加傾向が今年度も見られた。歴史的厄災による諸制限が外れ本来の学校生活が一層戻ってきた背景がその一因と考えられる。
- 学習面では、大学生による定期的な補いの機会を英語教科において新たに提供した。その効果が

顕著に表れた結果は見えてとれないが、今後継続的な実施の中でその効果を検証していく。また、授業に取り組む教員の意識の高まりが伺える結果となった。引き続き教学面での環境整備を進めたい。

- 生徒会を中心とする生徒の自治意識の向上が見られた。学校生活における要望を教員側と交渉して、例年以上にその望むところを実現させた。昨年度の中学部への第三者評価でその重要性が示唆された「生徒の主体的意識の向上」が一定達成されたものと受け取ることができる。
- 保護者との連携に関し、教員・保護者間の意思疎通や意見交換は決して不十分ではないものの、さらに改善の余地がある様子が見えてとれる。時宜にかなった適切な説明など、生徒の問題行動時のみならず、保護者とのやりとりを引き続き丁寧に行っていきたい。
- キリスト教主義教育やスクールモットーの浸透と共感については例年と変わらないレベルの評価を得たが、関西学院教育の基礎段階を担う学校の一つとして、授業・行事・課外活動のすべてを通じ全人教育に一層の磨きをかけていきたい。

2023 年度の評価をふまえて 2024 年度に予定している評価項目、テーマ等

- 評価項目については、①教育課程・学習指導、②生徒指導、③保健管理、④保護者との連携、⑤キリスト教主義教育の実践、⑥特色ある教育の実践、⑦関西学院共通項目の 7 項目を継続して取り上げる。

第三者評価／学校関係者評価

2023 年度のアンケート調査（生徒調査、保護者調査、教員調査）の結果を見ると、中学部の先生方が各評価項目に関わる活動に熱心かつ積極的に取り組まれている様子が見取れるとともに、それらの活動が生徒や保護者から高く評価されていることがうかがえます。そのため、各評価項目は、いずれも高い水準で達成されていると考えられます。以上は総評ではありますが、次に各評価項目についてコメントさせていただきます。

教育課程・学習指導については、生徒調査の結果から、生徒が中学部の教育（問 2 の肯定的評価は 86.2%）や補習の機会があること（問 6 の肯定的評価は 87.3%）を高く評価しているとともに、生徒の 7 割以上が問 4「自分の学力は伸びていると感じている」に対して肯定的評価をしていることがうかがえます。

また、生徒調査の結果から、問 8「課外活動が充実している」に対して 9 割以上の生徒が肯定的評価をしているとともに、問 9「学業とクラブ活動が両立できる環境にある」に対して 85.5%の生徒が肯定的な評価をしています。これらの結果より、「生徒会などの自治活動の充実」「クラブ活動など課外活動の充実」「課外活動が正課（学習）を妨げていないことの徹底」という目標は十分に達成されていると考えられます。

生徒指導（「基本的生活習慣の確立」、「自主自律の精神」）については、生徒調査の結果から、中学部による生徒に基本的社会マナーを身に付けさせるための働きかけは 9 割以上の生徒から肯定的な評価をされているとともに、問 7「自分たちの手でホームルームや生徒会などの自治活動を行っている」に対して 85%の生徒が肯定的評価をしていることが分かります。これらの結果より、生徒指導のテーマとして掲げられている、「基本的生活習慣の確立」や「自主自律の精神」は、高い水準で達成されていると思われます。

生徒指導（「問題行動への対応」）については、生徒調査の結果から、85%以上の生徒が肯定的な評価をしていることから、適切な対応がなされていると推察されます。

保健管理（「心身の健康管理」、「怪我・急病発生時の対応」）については、生徒調査の結果から、生徒個人々の健康に関する情報の把握や心身の健康に関する相談の場の設置、怪我や体調不良の際の迅速かつ適切な対応の面において、高く評価されていることがうかがえます。

保護者との連携については、保護者調査の結果より、95%の保護者が問 18「担任と保護者との

適切な面談の実施」において肯定的な評価をしているとともに、98.7%の保護者が問 17「行事などの際の PTA との協力」および「PTA との協議会の適切な開催」において肯定的な評価をしていることが分かります。これらの結果より、中学部と保護者との連携は非常に強固であると考えられます。

キリスト教主義教育の実践については、生徒調査の結果から、問 15「日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる」に対して 88%の生徒が肯定的評価をしており、その結果として、問 16「キリスト教に関する理解が深まっている」に対して 83%の生徒が肯定的な評価をしています。また、キリスト教教育の実践は、保護者からも極めて高い評価をされています（97.8%の保護者が「キリスト教教育の適切な実践」を肯定的に評価）。

特色ある教育については、生徒調査の結果から、生徒に読書習慣が身についている様子や、音楽・美術などの芸術活動を通じて生徒の感性と表現力が育まれている様子、キャンプ・体験学習が適切に実施されている様子などがうかがえます。

スクールモットーである“Mastery for Service”の理念については、生徒・保護者・教員調査の結果から、広く共有および共感されているとともに、“Mastery for Service”を体現する世界市民」の育成につながる教育実践も高く評価されていると考えられます。

第三者評価／学校関係者評価

今年度の学校評価は概ね前年度より肯定的評価が高く、中学部の教員が不断の努力を積み重ねていることが推察できます。称賛に値すると思えます。

教育課程・学習指導において、すべての項目で肯定的な評価が高いです。特に問 4「質の高い授業を目指して、授業研究を不断に行っている」に対して、教員の 97.3%が肯定的な評価をしています。この数字はかなり高いものと考えます。教師として当たり前と言えば当たり前ですが、なかなか難しいことだと考えます。ただ、教科研究費については本当に有意義な研鑽につながっているかを検証する必要があります。

「補習の機会が確保されているか」の項目で肯定的な評価が生徒と保護者の間で差が大きいです。これは、保護者がさらなるわが子の学力アップを望んでいると考えてよいのではないのでしょうか。保護者が求める学力とは何か、中学部が考えている学力とは何かをお互いに理解する必要があると考えます。

今年度もっとも成果が挙げたのは、生徒の自治意識の向上です。校歌「空の翼」の 2 番の歌詞に「躍々さらに朗よ我が自治」というくだりがあります。関西学院がいかに学生や生徒の自治意識を重要としているかがわかります。そのような背景で中学部生が自治意識を高め、積極的に教師へ様々な提案をすることは、有意義なことです。ただし、提案や要求が脱線せず、正しい方向へ向くように教師が指導、導くことを忘れてはいけません。さらなる中学部生の正しい自治意識の向上を望みます。

生徒指導面で新しい設問 16「教員は生徒の問題行動の早期発見に向けて、日ごろから人間関係を観察し、適宜面談を実施している」において、教員の肯定的評価が 97.3%と高いです。これはいじめの防止や早期発見につながります。ただし、面談の具体的な方法などを研修や情報交換などを通して研鑽していく必要があります。

キリスト教主義教育の実践においては、項目によって微減または微増と、おおむね現状維持と見えます。キリスト教主義教育は関西学院の根幹です。毎日の礼拝を大切にし、さらなる意識向上と共通理解の深化に取り組んでいただきたいと思えます。

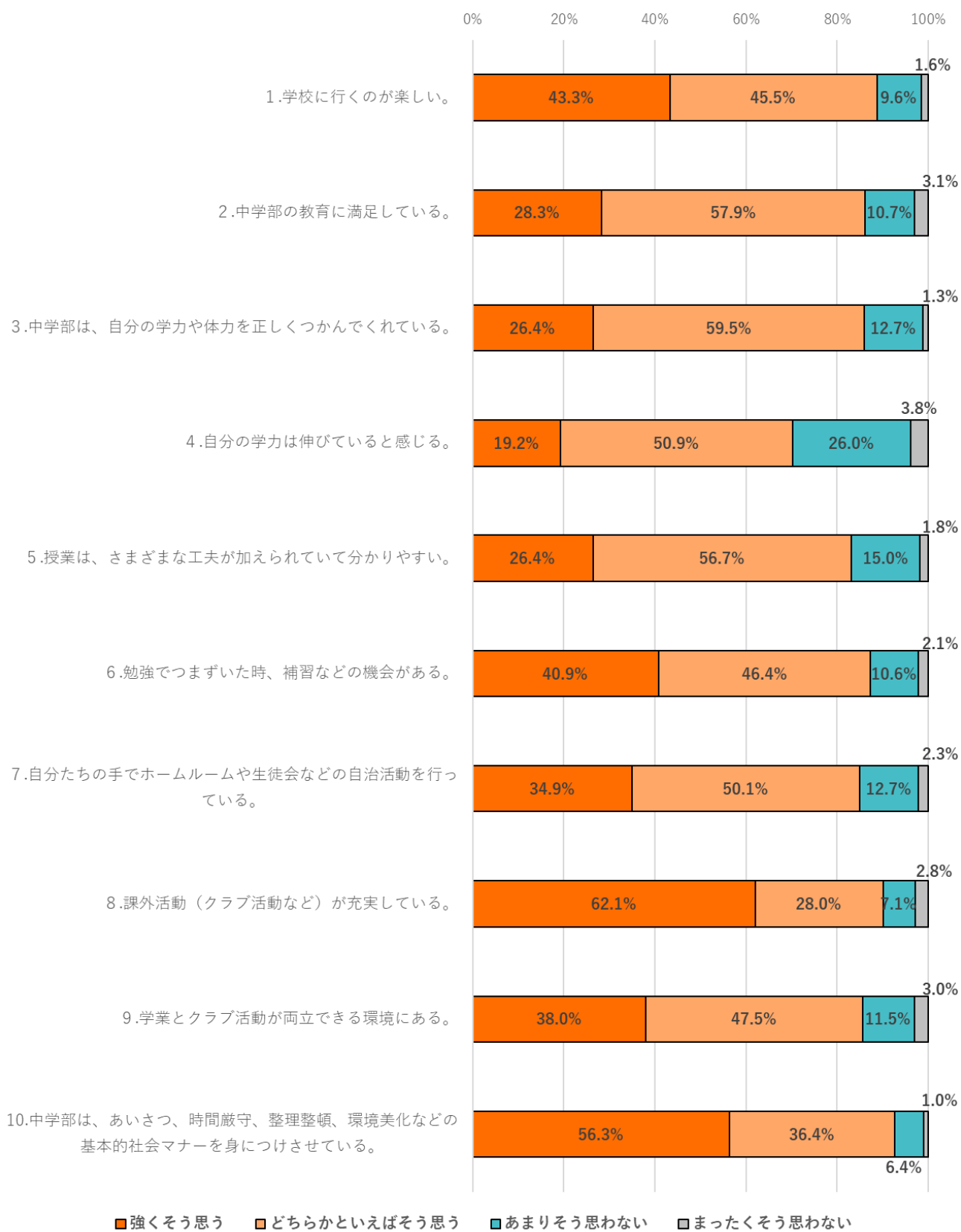
関西学院共通項目において「スクールモットー“Mastery for Service “を知っている」の設問で教師の回答が 100%であるのは当然ですが、保護者、生徒の回答は 100%ではありません。入学する前に当然予備知識として調べているはずであり、面接でたずねられていると思えます。今後 100%になるように工夫と努力をしてほしいと思えます。

中学部は、将来、世界市民として社会を担っていく人材を育む土台を担っています。これからも

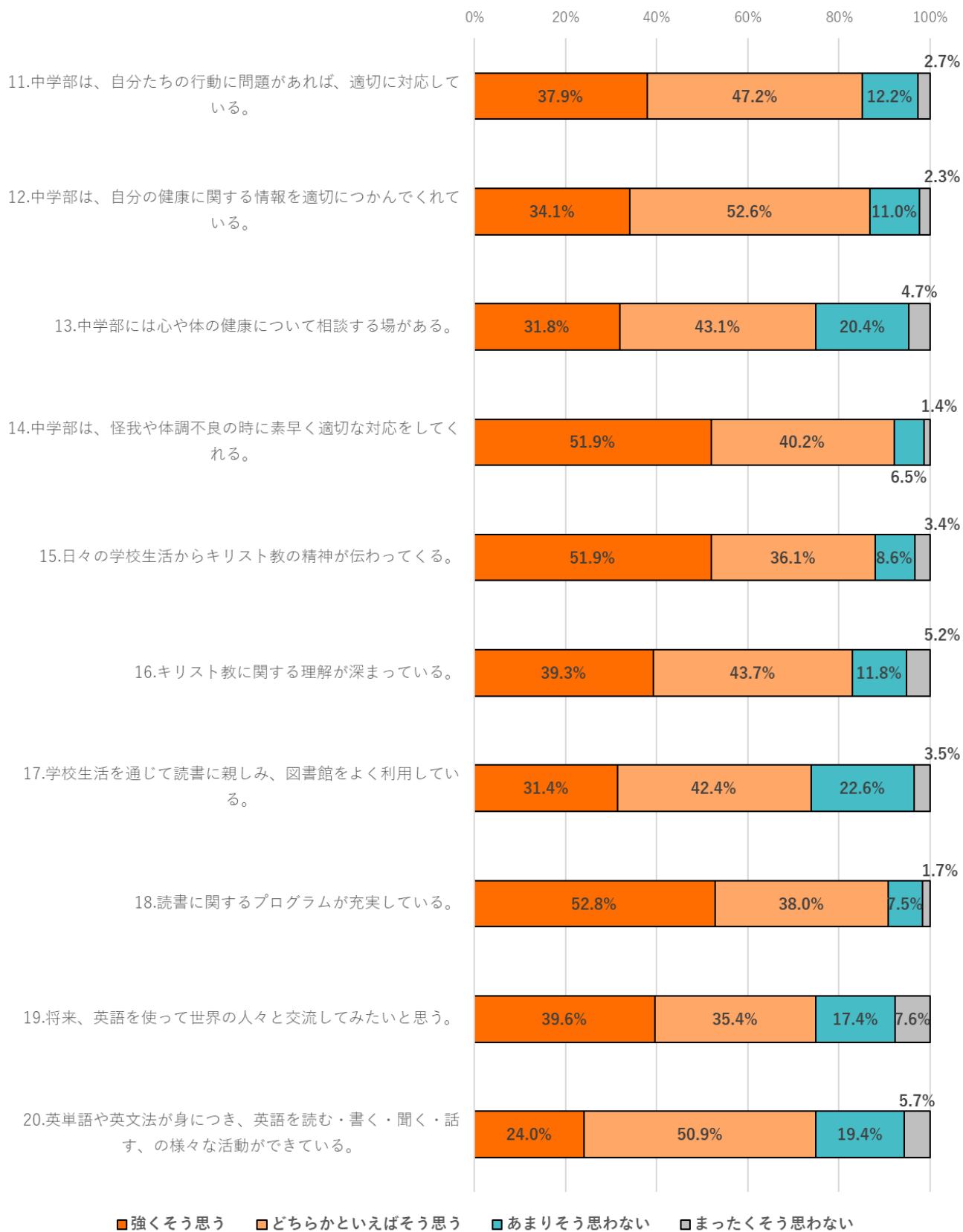
「奉仕のための練達」をモットーに教育活動を進めてほしいと思います。

2023 年度学校評価

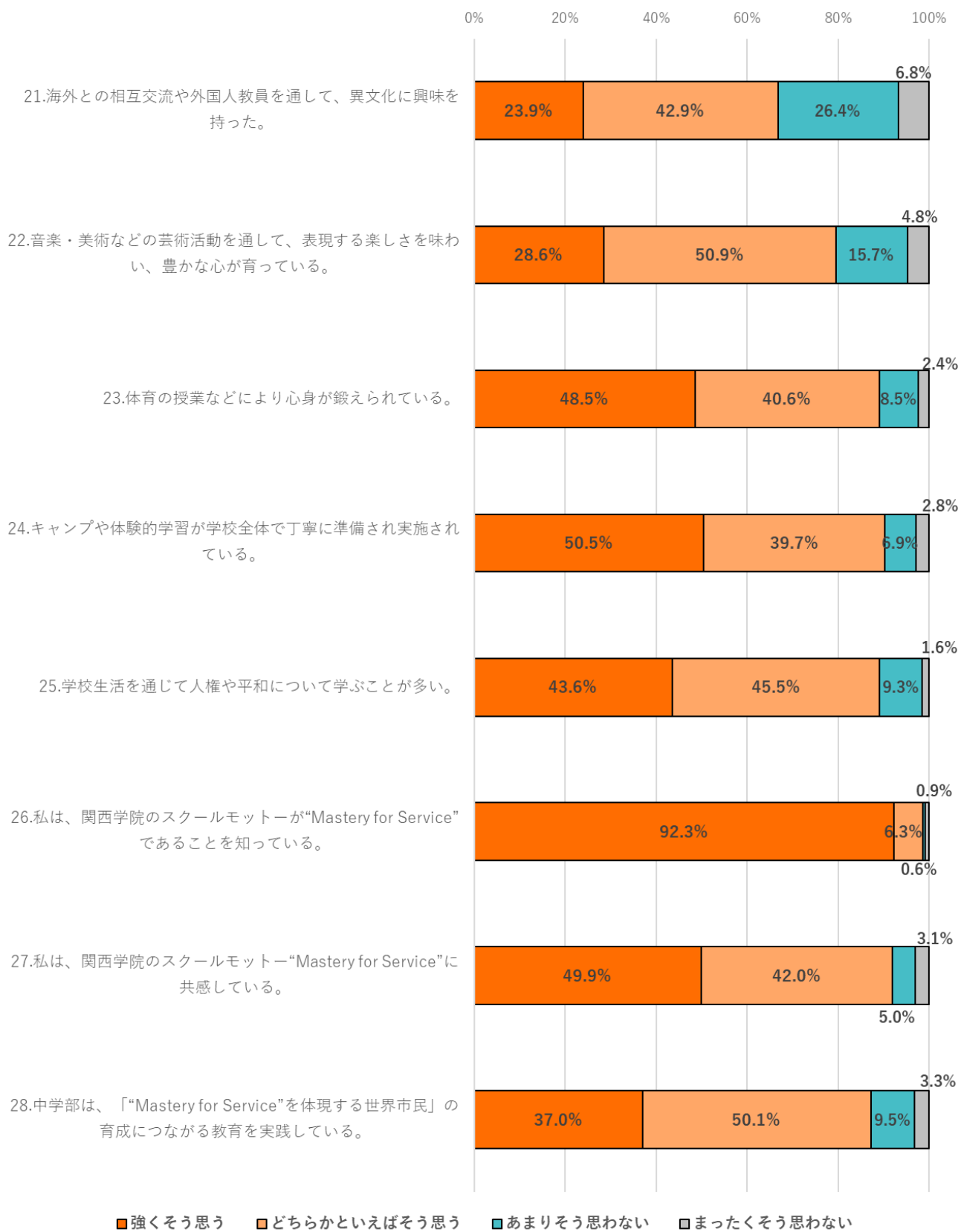
2023年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・生徒（回答率 98.1% 回答707人/対象721人）



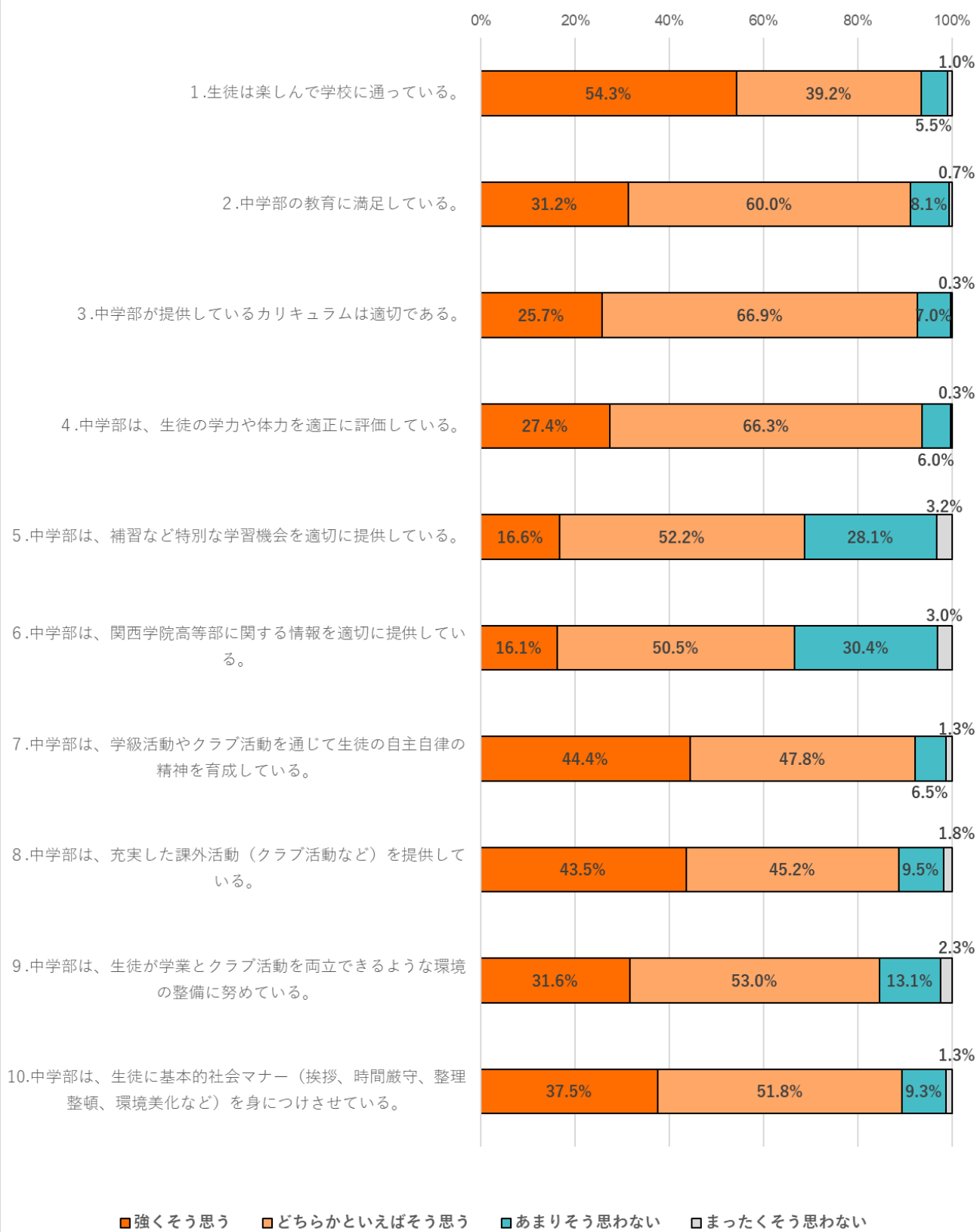
2023年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・生徒（回答率 98.1% 回答707人/対象721人）



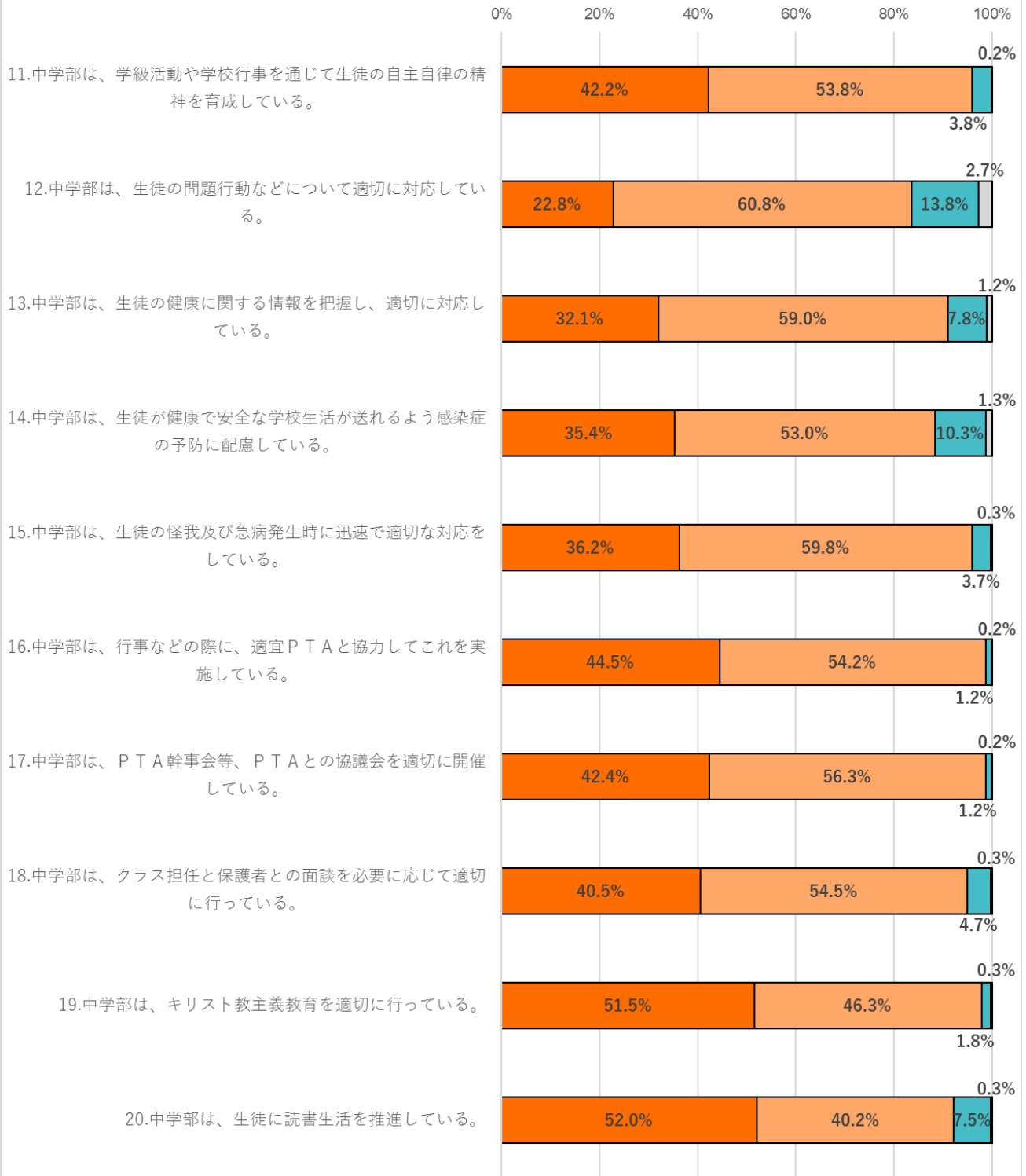
2023年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・生徒（回答率 98.1% 回答707人/対象721人）



2023年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・保護者（回答率 83.5% 回答602人/対象721人）

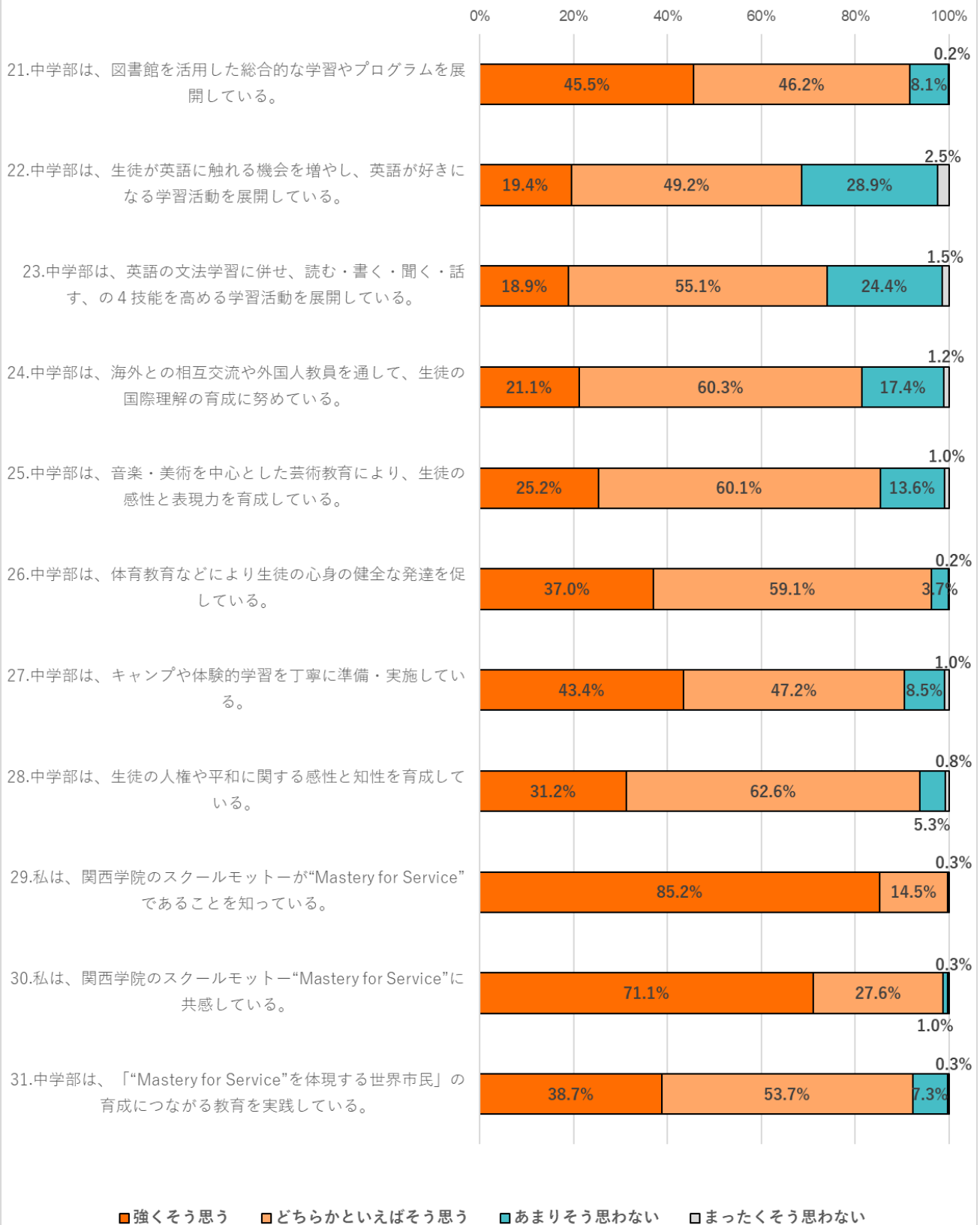


2023年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・保護者（回答率 83.5% 回答602人/対象721人）

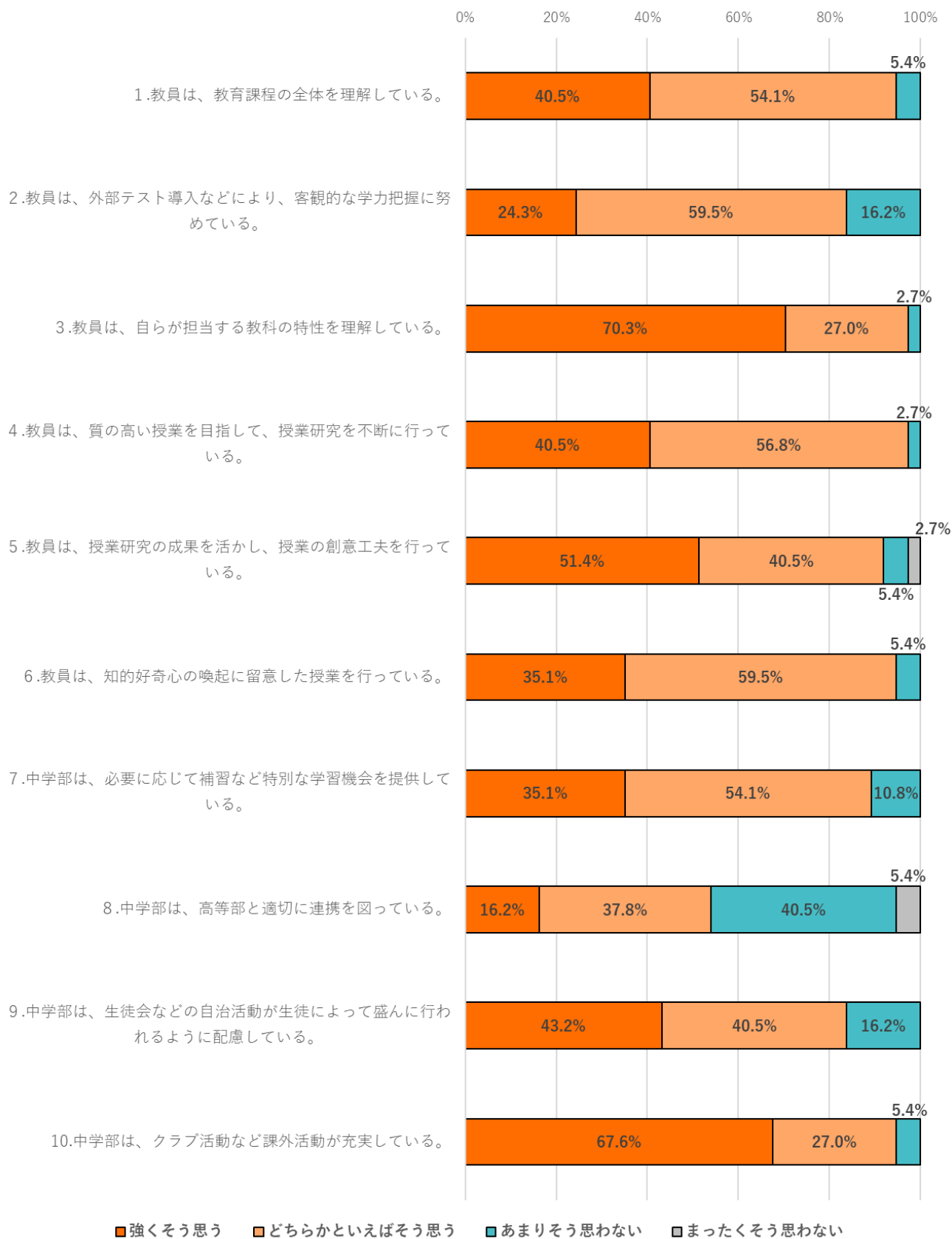


■ 強く思う
 ■ どちらかといえば思う
 ■ あまりそう思わない
 ■ まったくそう思わない

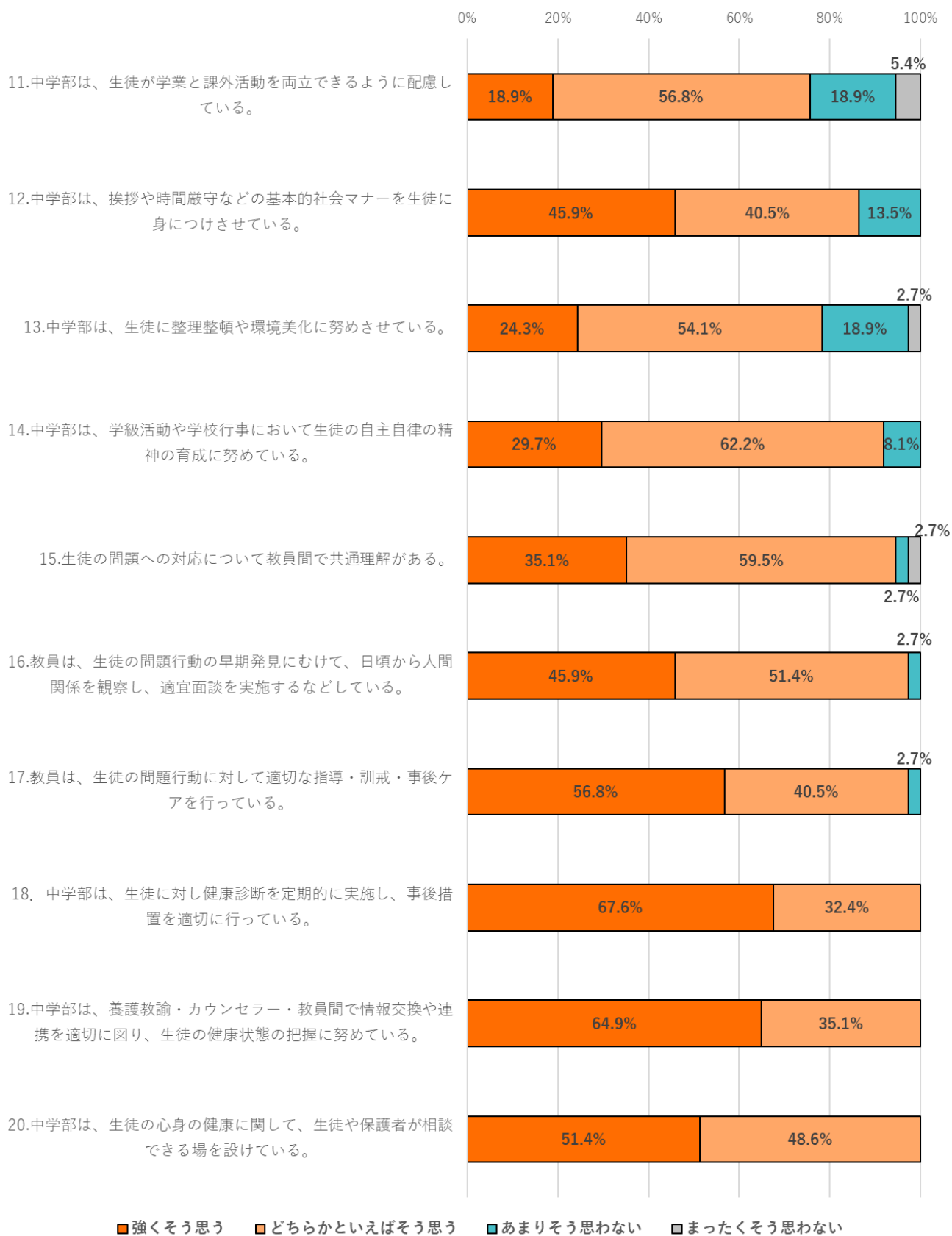
2023年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・保護者（回答率 83.5% 回答602人/対象721人）



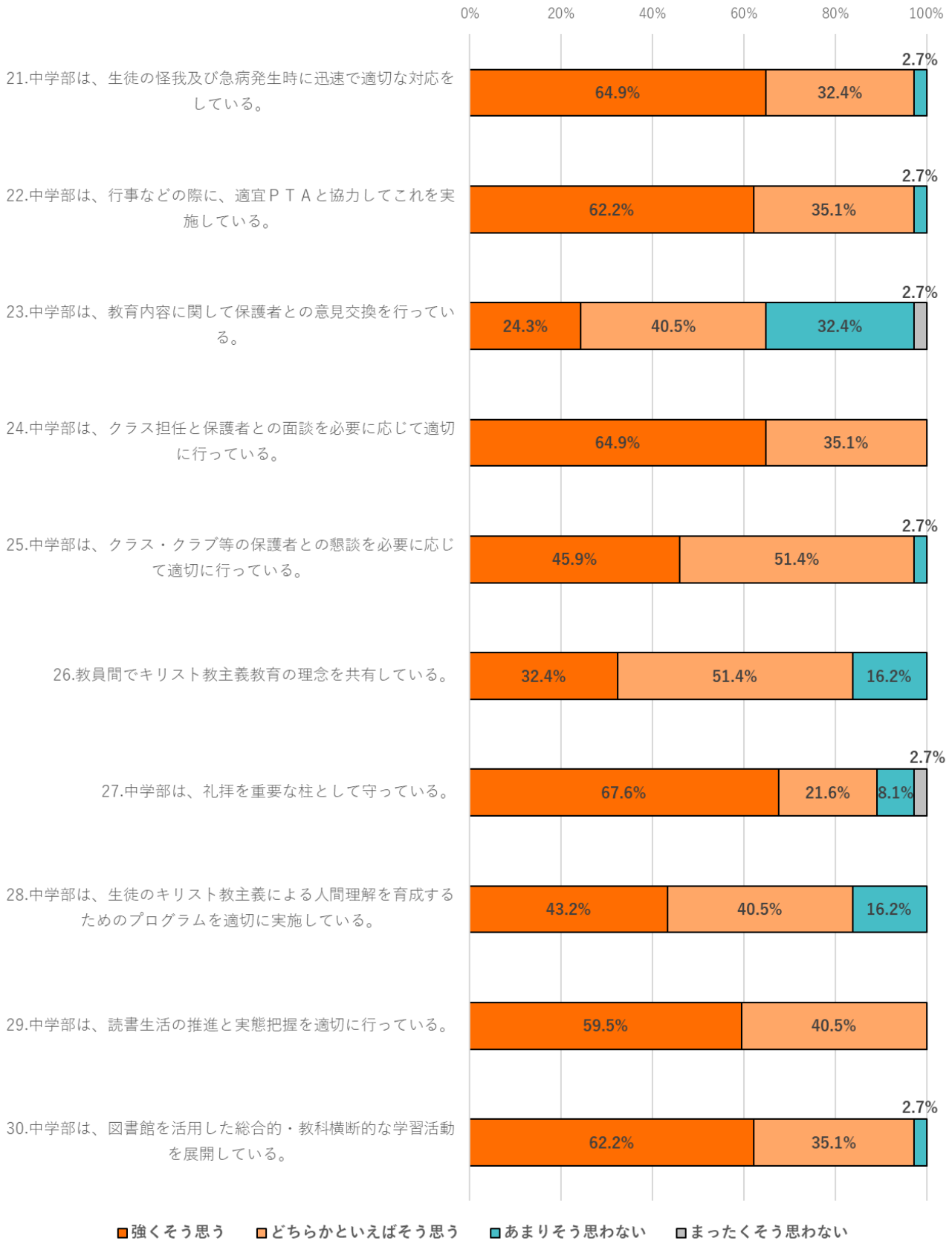
2023年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・教員（回答率 100% 回答37人/対象37人）



2023年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・教員（回答率 100% 回答37人/対象37人）



2023年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・教員（回答率 100% 回答37人/対象37人）



2023年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・教員（回答率 100% 回答37人/対象37人）

